

ICT活用工事（舗装工（修繕工））試行要領

1 趣旨

この要領は、奈良県県土マネジメント部が発注する土木工事において、「ICT活用工事（舗装工（修繕工）」）を試行するために、必要な事項を定めたものである。

2 ICT活用工事（舗装工（修繕工））

2-1 概要

ICT活用工事（舗装工（修繕工））とは、施工プロセス全ての段階において、以下に示すICT施工技術を全面的に活用する工事である。

また、次の①～⑤の全ての段階でICT施工技術を活用することをICT活用工事（舗装工（修繕工））とする。なお、「ICT舗装工（修繕工）」という略称を用いることがある。

- ① 3次元起工測量
- ② 3次元設計データ作成
- ③ ICT建設機械による施工（施工管理システム）（選択）
- ④ 3次元出来形管理等の施工管理（選択）
- ⑤ 3次元データの納品

2-2 ICT施工技術の具体的内容

ICT施工技術の具体的内容については、次の①～⑤及び表-1によるものとする。

① 3次元起工測量

起工測量において、交通規制を削減し3次元測量データを取得するため、下記1)～4)から選択（複数以上可）して測量を行うものとする。

起工測量にあたっては、施工現場の環境条件により、管理断面及び変化点の計測または面的な計測による測量を選択するものとし、ICT活用とする。

- 1) 地上型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 2) TS（ノンプリズム方式）を用いた起工測量
- 3) 地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量
- 4) その他の3次元計測技術を用いた起工測量

② 3次元設計データ作成

2-2①で計測した測量データ等と、発注者が貸与する発注図データを用いて、3次元出来形管理を行うための3次元設計データを作成する。

③ ICT建設機械による施工（施工管理システム）（選択）

2-2②で作成した3次元設計データを用い、下記1)に示す施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工を実施又は従来型建設機械による施工が選択できる。

- 1) 3次元位置を用いた施工管理システム

④ 3次元出来形管理等の施工管理（選択）

ICT舗装工（修繕工）の施工管理において、施工管理システムを搭載した建設機械を用いた施工を選択した場合下記に示す方法により施工管理を実施、従来型建設機械によ

る施工を選択した場合は従来手法による施工管理を実施する。

(1) 出来形管理

路面切削作業の施工管理において、下記に示す方法により出来形管理をする。

1) 施工履歴データを用いた出来形管理

⑤ 3次元データの納品

2-2①②による3次元データ等及び④において施工を選択した場合、3次元施工管理データを、工事完成図書として電子納品する。

《表-1 ICT活用工事と適用工種》

段階	技術名	対象作業	建設機械	適用		監督・検査 施工管理	備考
				新設	修繕		
3次元起工測量/ 3次元出来形管理 等施工管理	地上レーザースキャナーを用いた起工測量 (舗装工事編)	測量	-	-	○	①、②、⑥	
	TS(ノンプリズム方式)を用いた起工測量 (舗装工事編)	測量	-	-	○	①、③	
	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた 起工測量(舗装工事編)	測量	-	-	○	①、④	
	施工履歴データを用いた出来形管理技術	出来形計測	ICT 建設機械	-	△	①、⑤	路面切削工
	地上写真測量を用いた出来形管理技術	出来形計測	-	-	△	①、⑥	路面切削工
	TS等光波方式を用いた出来形管理技術	出来形計測	-	-	△	①、⑦	路面切削工

【関連要領等一覧】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	3次元計測技術を用いた出来形管理要領(案)路面切削工編	地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)	TS(ノンプリ)を用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)	地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理の監督・検査要領(舗装工事編)(案)	施工履歴データを用いた出来形管理の監督・検査要領(路面切削工編)(案)	地上写真測量を用いた出来形管理の監督・検査要領(路面切削工編)(案)	TS等光波方式を用いた出来形管理の監督・検査要領(路面切削工編)(案)	地上レーザースキャナーを用いた公共測量マニュアル(案)一国土地理院

【凡例】○：適用可能 △：選択可能 -：適用外

2-3 ICT活用工事（舗装工（修繕工））の対象工事

ICT活用工事（舗装工（修繕工））の対象工事は下記（1）かつ（2）に該当する工事とする。ただし、下記（3）に該当する工事を除く。

（1）対象工事

原則として、3,000 m²以上の舗装工を含む工事を対象とする。ただし、これ以外の工事において受注者からICT活用について希望があった場合はこの限りでない。

（2）対象工種・種別

ICT活用工事の対象は、工事工種体系ツリーにおける下記の工種とする。

《表-2 ICT活用工事の対象工種種別》

工事種別	工種	種別
・道路維持 ・道路修繕 ・橋梁保全工事	舗装工	切削オーバーレイ工 路面切削工

（3）適用対象外

従来施工において、土木工事施工管理基準（出来形管理基準及び規格値）を適用しない工事は適用対象外とする。

3 ICT活用工事（舗装工（修繕工））の実施方法

3-1 発注方法

ICT活用工事（舗装工（修繕工））の発注は、施工者希望Ⅱ型とする。

3-2 発注における入札公告等

入札公告時、特記仕様書等の記載例については、別添-3のとおりとする。なお、記載例にならないものについては、別途作成するものとする。

4 ICT活用工事实施の推進のための措置

4-1 工事成績評定における措置

起工測量から電子納品までの全ての段階でICTを活用した場合は、主任監督員の「創意工夫」における「ICT（情報通信技術）を活用した情報化施工を取り入れた工事。」において評価するものとする。

5 ICT活用工事の導入における留意点

受注者が円滑にICT活用施工を導入し、ICT施工技術を活用できる環境整備として、以下を実施するものとする。

5-1 施工管理、監督・検査の対応

ICT活用施工を実施するにあたって、別途発出されている施工管理要領、監督・検査要領（表

1【要領一覧】)に則り、監督・検査を実施するものとする。

監督職員及び検査職員は、活用効果に関する調査等のために別途費用を計上して二重管理を実施する場合を除いて、受注者に従来手法との二重管理を求めない。

5-2 3次元設計データ等の貸与

- (1) ICT活用工事の導入初期段階においては、従来基準による2次元の設計データにより発注することになるが、この場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「3次元設計データ作成」を受注者に実施させ、これにかかる経費を工事費にて当該工事に変更計上するものとする。
- (2) 発注者は、詳細設計において、ICT活用施工に必要な3次元設計データを作成した場合は、受注者に貸与するほか、ICT活用施工を実施するうえで有効と考えられる詳細設計等において作成した成果品と関連工事の完成図書は、積極的に受注者に貸与するものとする。

なお、貸与する3次元設計データに3次元測量データ(グラウンドデータ)を含まない場合、発注者は契約後の施工協議において「3次元起工測量」及び「貸与する3次元設計データと3次元起工測量データの合成」を受注者に実施させ、これにかかる経費は工事費にて当該工事に変更計上するものとする。

5-3 工事の積算

発注者は、発注に際して土木工事標準積算基準(従来施工の基準)に基づく積算を行い、発注するものとするが、契約後の協議において受注者からの提案によりICT活用施工を実施する場合、ICT活用施工を実施する項目については、各段階を設計変更の対象とし、「ICT活用工事(舗装工(修繕工))積算要領」に基づき積算するものとする。

施工者から、3次元MC路面切削機の活用について提案された場合、当面のあいだ通常型機械として「ICT活用工事(舗装工(修繕工))積算要領」に基づき積算する。なお、施工管理システムを搭載している場合は該当する内容を計上する。

また、現行基準による2次元の設計ストック等によりICT活用工事を発注する場合、受注者に3次元起工測量及び3次元設計データ作成を指示するとともに、3次元起工測量経費及び3次元設計データ作成の費用及び外注経費等の費用の計上方法については奈良県で定めた単価または「土木工事標準積算基準(奈良県県土マネジメント部)」によるものとし、設計変更の対象とする。

5-4 現場見学会・講習会の実施

受注者は、発注者から指示があった場合は、ICT活用工事の推進を目的とした現場見学会・講習会を実施するものとする。

5-5 アンケートへの協力

受注者は、工事完成後14日以内に別添-5のアンケートを監督職員に提出するものとする。

6 疑義について

本試行要領によるICT活用工事(舗装工(修繕工))の施工にあたり疑義が生じた場合は、受

発注者が協議した上で対応するものとする。